

ジトーミル州保健局のホームページに掲載されました。

http://oz.zt.gov.ua/index.php?option=com\_content&view=article&id=6716:rzdvya

## (以下和訳)

## 日本からのクリスマス・カード

慈善基金「チェルノブイリの人質たち」のサポートを得て、日本の福島県の代表団がジトーミル州を 訪れた。メンバーは小林岳紀・友子夫妻、杉田和人監督[原文のママ]、東京大学都市計画学部[原文のマ マ]大学院生の益邑昭伸、ジャーナリスト原義和、「チェルノブイリ救援・中部」運営委員神野美知江の各 氏である。



「代表団の来訪の主要な目的は、TV番組とドキュメンタリー映画のため、クリスマス・カードの国際 共同キャンペーンを取材することです。ジトーミル州と日本で行われているこの共同キャンペーンは、 もう5年目になります」と、慈善基金のリーダーであるイェヴゲーニヤ・ドンチェヴァ氏は語る。



11 月 23 日、代表団は州立小児病院を訪れ、同院院長のユーリイ・ドウホポールィイと面談し、血液腫瘍セクション及び神経科セクションの小さな患児たちに会って、彼らに日本の子どもたちのクリスマス・カードを手渡した。ウクライナの子どもたちは、自分たちの年賀とクリスマスのお祝いのカードを、お返しに日本の子どもたちにことづけた。



ウクライナと日本の共同キャンペーン「クリスマス・カード 2017」は、ウクライナの子どもたちの優しく善良な心によってサポートされ、日本の世論をも喚起した。人災の影響を受けた両国の将来を支える世代が、チャリティーという重大な使命に協力したという意味で、このことは特に重要なのである。



日本の代表団のジトーミル州での滞在スケジュールは、相当に充実したものである。客人たちはジトーミル市第 25 番学校でのクリスマス・カード作成マスター・クラスに立ち会う予定である。この学校はもう長年にわたり、日本の団体「チェルノブイリ救援・中部」と活発に協力している。ナロジチ地区とオヴルチ地区では「お陽さま」幼稚園(ナロジチ町)の園児たちに会い、キャンペーンに最も積極的に参加した現地の家族を訪問する。



代表団にとってとりわけ重要なのは、汚染地域の第 2 及び第 3 ゾーンに住み、チェルノブイリ原発事故の被災者の資格を持っている住民たちとの交流である。オヴルチ第 3 学校の生徒たちと教師たちは、客人たちを懇ろに招待し、そこではクリスマス・カード作りのマスター・コースと、汚染地域の住民たちの健康状態の現状に関して話し合う円卓会議が開催された。



代表団のメンバーと、事故処理作業者である被災者たちの基金との面談はすでに恒例となっている。 親しく話し合う場で思い出を分かちあうとともに、原子力の災厄を体験してきた人たちの現在の問題に 耳を傾けるためである。



保健局プレス・センター (以上)